

(参考1)

酸化プロピレンに係る情報

1 性状

酸化プロピレン（別名：プロピレンオキシド、1,2-エポキシプロパン）は、常温常圧でクロロホルム臭を有する無色液体であり、水、エタノール、エーテルに易溶である。また、物性等は表に示すとおりである。

表 酸化プロピレンの物性等

CAS No.	75-56-9
構造式	$\begin{array}{c} \text{H}_2\text{C}-\text{CH}-\text{CH}_3 \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{O} \end{array}$
分子量	58.08
沸点	33.9°C
融点	-57.2°C
引火点	-37°C
発火点	449°C
比重	0.83

2 用途

プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、プロピレンハロヒドリン、オキシエステル類、オキシエーテル類、プロピオンアルデヒド、アセトン、プロピレンカーボネートなどの合成原料、顔料、医薬品中間体、殺菌剤

3 人に対する影響

目を侵しやすく、結膜炎を起こす。

蒸気を吸入すると、低濃度の場合は、軽い頭痛、めまい、高濃度の場合は、粘膜を刺激し、肺水腫を起こすことがある。

4 がん原性に関する評価

(1) 日本産業衛生学会

：第2群B（人間に対しておそらく発がん性があると考えられる物質で、証拠が比較的十分でない物質）

(2) ACGIH（米国産業衛生専門家会議）

：A3（実験動物に対してのみ発がん性が確認された物質）

5 ばく露限界濃度

ACGIH：TLV-TWA 2ppm（1995年）

（注）TLV-TWA：時間荷重平均ばく露限界濃度

（ ）内の年は、濃度についての最終改訂年